

# Express5800/140Rf-4、R140a-4 LANポート#3/#4の無効設定禁止について

Express5800/140Rf-4、R140a-4にて、以下の条件下でご使用の場合、OS起動時、稀にCPU内部エラーを検出し、リブート(CPUが縮退し再起動)が発生する事があります。LANポート#3/#4は有効設定のままご使用ください。(無効設定禁止)

## 発生条件

- ・LANポート#3/#4を共に無効にした場合(出荷時設定は有効)
- ・Windows Server 2003を使用。(OSレビジョン(x64/x86、Service Pack、R1/R2等)には依存しない)

## 対象装置

- ・140Rf-4 N8100-1364、N8100-1365
- ・R140a-4 N8100-1478、N8100-1479、N8100-1480

LANポート#3/#4を無効設定にしている場合、有効設定に戻してください。  
ただし、LANポートを有効に戻す場合、以下の二案のいずれかの設定が必要となります。

- 1.LANポートを有効にする際、OS上hostsファイルに自ホスト名、およびIPアドレスを追記する。  
Netbackupがインストールされている場合、「バックアップが出来ないことがある」という問題が発生する可能性が有り、これを回避する処置案です。

※本処置案はNetbackupに対する回避策であり、他のアプリケーションについてもLANポート#3/#4有効化による影響が無いか確認する必要があります。

- 2.LANポート#1/#2のLANケーブル接続をLANポート#3/#4と入れ替える。  
上記変更により、LANポート#3/#4のいずれか一方(または二方)を有効化、かつ、LANポート#1/#2は無効化(Disable)可能なため、ネットワーク設計の変更は不要。  
※ただしPROset等LAN周りの他の設定をしている場合には、LANポート#1/#2とLANポート#3/#4を入れ替えた際に、PROset等の設定変更も必要になります。

設定方法については、次項「処理手順」をご参照ください。

## 本件に関するお問い合わせについて

本件の内容についてご不明点等ございましたら、下記ファーストコンタクトセンターまでお問い合わせください。

お問い合わせ先:ファーストコンタクトセンター

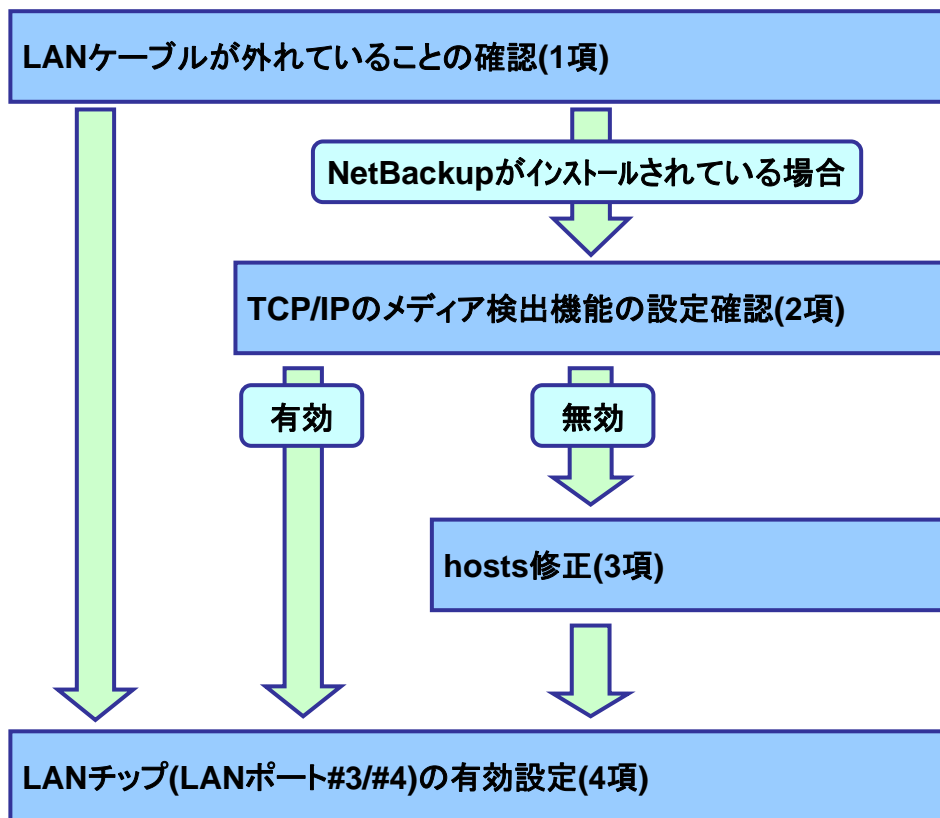
TEL :03-3455-5800

受付時間 :9:00~12:00 13:00~17:00 月曜日~金曜日(祝日を除く)

## 処置手順

以下の手順に従いLANポート#3/#4を有効化する。  
詳細は次ページ以降を参照。

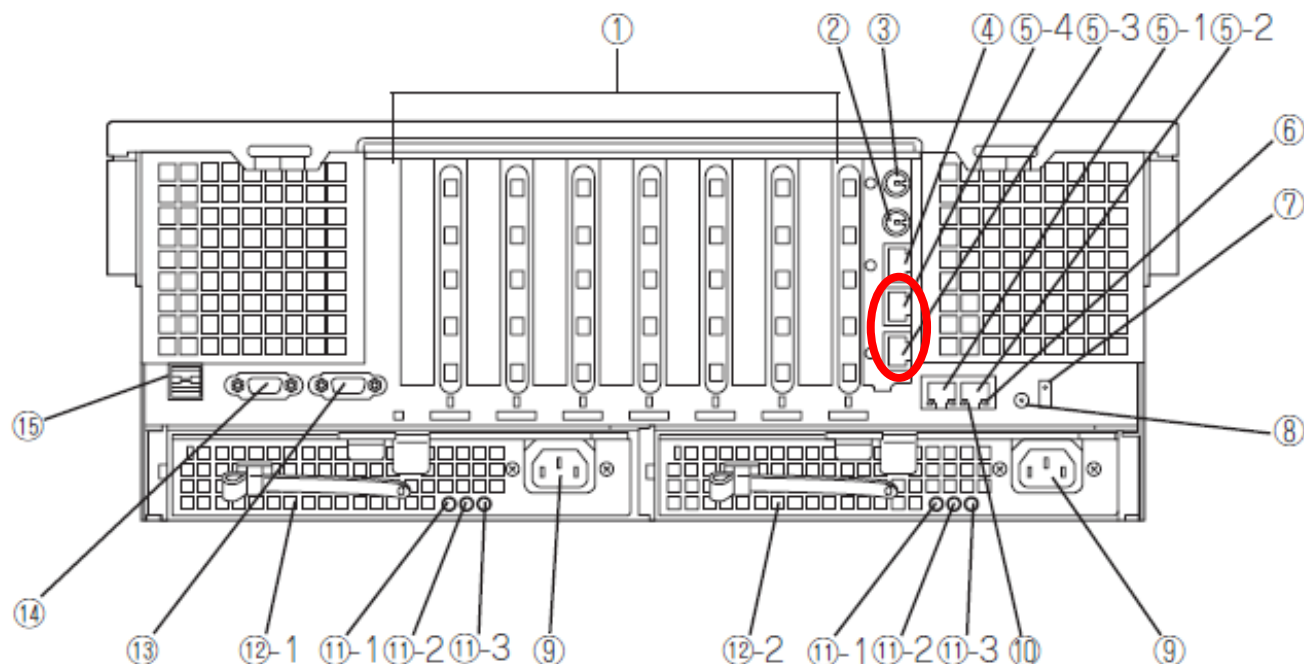
注意: CLUSTERPRO/MSCSがインストールされている場合、並びにレジストリでメディア検出機能を無効にしている場合、LANケーブルが接続されていないポートにもIPアドレスが振られる。  
この場合に影響を受けるPPがある場合にはPP側での対応が必要。  
NetBackupについてはhostsの設定で対応。



## 1. LANケーブルの接続確認

図1に示すLANポート(赤丸で囲ったLANポート)にLANケーブルが接続されていないことを確認する。

LANケーブルが接続されている場合はケーブルを外す。



- ① PCI Expressスロット(左からスロット#1～#7)。
- ② キーボードコネクタ: オプションのキーボードを接続する。
- ③ マウスコネクタ: オプションのマウスを接続する。
- ④ 管理用LANポート
- ⑤ LANコネクタ: ネットワークに接続する。丸数字の後の番号はポート番号を示す。

図1. 140Rf-4/R140a-4 背面図

## 2. TCP/IPのメディア検出機能の設定確認

- 本機能が無効になっている場合、LinkDown時(LANケーブルが接続されていない状態)でもIPアドレス等設定することができる。
- 以下のレジストリで本設定が有効になっていることを確認する。
- 標準設定では、本機能は有効(レジストリが存在しない)。

HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥System¥CurrentControlSet¥Services¥Tcpip¥Parameters  
DisableDHCPMediaSense

値のデータ: 0(有効)

1(無効)

※値自体が存在しない場合は、有効となる。

CLUSTERPROがインストールされている場合には本設定は1(無効)に設定される。

1項にてLANケーブルが外れていること、2項にてメディア検出機能が有効になっている事が確認できた場合は、4項LANチップ(LANポート#3/#4)の有効設定を実施する。

2項にてメディア検出機能が無効になっている場合には、3項hosts修正を実施後、4項LANチップ(LANポート#3/#4)の有効設定を実施する。

### 3. hosts修正

- Netbackupがインストールされている全ての装置(バックアップサーバ装置およびクラスタを構成している場合はその全ての装置)で、各OS上のファイル(hosts)をメモ帳で開き、各装置のIPアドレス、ホスト名を追記する。

C:¥WINDOWS¥system32¥drivers¥etc¥hosts

```
# Copyright (c) 1993-1999 Microsoft Corp.
#
# This is a sample HOSTS file used by Microsoft TCP/IP for Windows.
#
# This file contains the mappings of IP addresses to host names. Each
# entry should be kept on an individual line. The IP address should
# be placed in the first column followed by the corresponding host name.
# The IP address and the host name should be separated by at least one
# space.
#
# Additionally, comments (such as these) may be inserted on individual
# lines or following the machine name denoted by a '#' symbol.
#
# For example:
#
#       102.54.94.97       rhino.acme.com          # source server
#       38.25.63.10       x.acme.com              # x client host
127.0.0.1               localhost
バックアップサーバのIPアドレス   バックアップサーバのホスト名
クラスタ1号機のIPアドレス       クラスタ1号機のホスト名
クラスタ2号機のIPアドレス       クラスタ2号機のホスト名
```

- IPアドレス、自ホスト名の確認方法

- ・ 自ホスト名の確認方法

- コマンドプロンプトから「ipconfig /all」を実行する。

```
Windows IP Configuration
Host Name . . . . . XXXXXXXXXX
```

自ホスト名

- ・ IPアドレスの確認方法

- Netbackupのサービスを停止する。
- コマンドプロンプトから「nslookup」コマンドでIPアドレスを確認する。

nslookup XXXXXXXXXX (ipconfig/allコマンドで確認した自ホスト名)

```
Server:   xxxxxx          ← DNSサーバのホスト名が出る
Address:  xx.xx.xx.xx     ← DNSサーバのホストIPが出る

Name:     xxxxxx
Address:  xx.xx.xx.xx     IPアドレス
```

- 上記の方法で確認したIPアドレス、自ホスト名をhostsに追記する。
- Netbackupのサービスを開始する。

#### 4. LANチップ(LANポート#3/#4)有効化

OSのデバイスマネージャからLANチップ[82575EB](LANポート#3/#4)を有効(Enable)にする。